

平成26年

季刊

夏季号

Vol.50

亞東



八田與一記念公園



一般社団法人亜東親善協会

The East Asian Friendship Association

一般社団法人亜東親善協会の概要

名称 一般社団法人亜東親善協会

(英文名 The East Asian Friendship Association)

事務所 東京都千代田区平河町二一七―五 砂防会館四階

(必要に応じ支部を設ける)

目的 会員相互の親睦並びに我が国とアジア諸国との

経済、文化の提携、交流を通じ、友好親善の増進を図る。

事業

① 我が国とアジア地域諸国との政治、経済、文化に関する調査研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版

② 我が国とアジア地域諸国との文化、芸術の相互の紹介

③ 我が国とアジア地域諸国との経済協力の推進に必要な情報の収集及び幹旋

④ 我が国に在住するアジア地域諸国民の生活相談

⑤ アジア地域諸国からの在日留学生にたいする進学の幹旋

⑥ その他本会の目的を達成するために必要な事業

亜東親善協会の変遷

社団法人亜東親善協会は、民主主義と自由経済を信条とするアジア人同志の交流を深める目的で一九四九年 東京に設立された『華南倶楽部』が発祥です。第二次世界大戦後の激動の時代でしたが、会員はひたすらアジアの平和と繁栄を希求し、友愛と信義を基調とした国際関係の樹立に努力を続けて参りました。その結果、この趣旨に賛同する有識者が次第に増加し、活発な活動とともに組織拡大の一途を辿りましたが、一九七二年の日中共同声明は、アジアの政治情勢のみならず、在日アジア人の日常にも大きな変化をもたらしました。

その前年即ち一九七一年、千葉三郎先生(衆議院議員)は、倶楽部を強化発展させる必要を痛感し、岸信介先生、福田赳夫先生、灘尾弘吉先生らと諮り、留日華僑有志の方々が協力され、自ら発起人となり同年五月二十九日外務省認可『社団法人亜東親善協会』を設立致しました。

千葉先生の引退後、原文兵衛先生が参議院議長の要職のまま会長に就任され、その後、永年衆議院で活躍された藤尾正行先生が会長を引き継がれ、二一世紀の幕開けとともに玉澤徳一郎先生が会長を務められました。

日本を含むアジア諸国は、世界の経済に大きな影響を与える程に成長しました。かかる情勢の中、二〇一二年五月、元内閣総理大臣安倍晋三先生を会長にお迎え致しました。同年一月安倍政権が発足、会長の内閣総理大臣復帰に伴い退任されました。

二〇一三年二月、安倍会長の意を受け、会長代行・大江康弘参議院議員が会長を引き継がれ就任されました。現在、領土問題等の紛争、北朝鮮の核問題、発展に伴う水・エネルギー環境問題なども山積しております。

アジアの繁栄と平和に貢献するために、本協会員一同、役員陣容を強化し、新会長のもと、叡智を結集し努力を続けております。

季刊「亜東」平成二六年 夏季号・目次

一般社団法人亜東親善協会・概要・変遷

目次・協会役員名簿

新たな日台友好に向けて

平成二六年第二回通常総会終了の報告

講演会「八田與一物語」

暑中見舞い広告

お知らせ

二頁

三頁

四頁

七頁

一五頁

一九頁

二三頁

平成26年7月8日現在

一般社団法人亜東親善協会役員名簿

名誉会長（理事以外）	1名	玉澤徳一郎							
参 与（理事以外）	1名	橋本 靖男							
会 長（代表理事）	1名	大江 康弘							
副 会 長（理 事）	4名	張 建国	張 碧華						
		山本 順三	千葉 健司						
専務理事	1名	崎谷 秀彦							
業務執行理事	張 建国	（副会長兼務）							
業務執行理事	赤松 則宏								
業務執行理事	千葉 健司	（副会長兼務）							
業務執行理事	藤山 雅康								
理 事	19名								
小松 省二	仲谷 俊郎	新井 秀子	南部 晴彦	益山 茂	松永理恵子				
多 忠和	三浦 信行	並木 正芳	伊野 雅晴	柴田 徳文	山口 裕志				
森 康郎	池本 好伸	笹岡 恭亮	矢野 哲朗	鶴保 庸介	永島 剛士				
小山 博史									
監 事	2名	莊司 隆一	李 ハロルド						
事 務 局		崎谷 秀彦							
		李 孔曉							
		一般社団法人 亜東親善協会							

新たな日台友好に向けて

会長 大江 康弘

みなさん、こんにちは。
また、暑い夏がやってきましたが、お元気でしょうか。



おかげさまで、私共の東親善協会も一般社団法人に移行して二年目、同時に私も会長を拝命して二年目を迎えました。これも日頃の皆さまの暖かいご理解とお支えであり心より感謝と御礼を申し上げます。

「日・台親善をしっかりと築いていこう！日・台友好をもっと深めていこう！日・台関係の健全な姿、構築こそ世界平和に寄与する。とりわけアジアの平和と安全に貢献する。」との信念で私自身は今日まで活動し、取組んで参りました。この思いを共有して下さる多くの皆さんの御尽力の結果、今や日・台関係は世界の中でも類をみない最も友好関係国として誇れる成果を作ることができました。あらためまして先人、先輩はじめ関係の皆さまに敬意を表する次第です。

さて、私事 昨年の夏の参議院選挙において私自身の不徳、力不足で結果を出すことができませんでした。

ただ、特に思い出すのは、昨年の選挙に敗れた後、和歌山

から東京に戻る新幹線の中で手にした「孔子の本（論語）」でした。人生を極めた孔子の言葉は新鮮で私にもう一度、チャレンジする勇気を与えてくれました。私があらためて次期を期する決意をした時でもありました。それは孔子が老境に至り自らを回顧して言った言葉であり、それは誰もが一度は目にし、耳にした言葉であると思います。吾、十有五にして学に志し、三十にして立つ。四十にして惑わず、五十にして天命を知り、六十にして耳に従う。七十にして心の欲する所に従って矩を踰えず。すなわち一五歳で学問によって身を立てることを志した、三〇歳で学問の力によって自立できた。四〇歳のときは、惑うことなく自分の信念にしたがって人生を進んだ、五十歳にして天から与えられた使命、すなわち、なすべきことを悟った。六十歳にして人の諫言、直言を素直にうけいられるようになった。七十歳にして心のおもむくままに行動して、ごく自然に道にかなった生き方ができた。この論語を読み直すとあらためて孔子自身の生涯において若い時から絶え間ない勉強と精進をして、ついには聖人の域に達した学ぶ言葉として大変心に残るもの打たれるものがありました。

そして、七四年の人生の最晩年の言葉は「天をうらまず、人をとがめず、勉強して人事を知り、天を知る、そして天のみは私を知っている」であります。私は最後の「天のみは私を知っている」の一節を心に刻み、自らの政治家としての再

起をもう一度誓って頑張る決意です。

台湾の皆さんに励ましてもらった言葉、「東山再起」の四文字に決意を込めて、もう一度挑戦する覚悟ですので今、少し時間を与えていただきたいと思います。そして、政治の現場を離れた今、あらためて、外交の原点である民間外交、民間交流に立ち返り、私共の会もしつかりと基盤を作り直して、より強固な会として、その崇高な目的を果していきたいと思っています。

会員の中には政治の権力を求め過ぎ本来の会の主旨とは、かけ離れた姿を望んでいる向きもありますが、政治のやりとりは国会が窓口となつて交渉し、話し合いをすれば良い事です。私も現役時代はそうしてきました。それが与えられた役割ですから。

おかげで、日・台のいろんな懸案については先輩、同僚の皆さんと一緒にたつて課題の解決ができたと思っています。

その最たるものが、現在、開催中である国立故宮博物院の至宝展です。これは悲願でありました。思い返せば、今から三年前の平成二三年三月二五日、足かけ五年の年月をかけて「海外の美術品等の我が国における公開の促進に関する法律」が参議院本会議において全会一致で可決、成立しました。もちろん私も、国会においては台湾との正式な交渉窓口である「日華議員懇談会」の所属の参議院議員として、この法律案の策定と成立に日夜奔走しておりました。と言いますのも、

この法律の「書きつぷり」は海外での民間の美術館が持っている美術品となっていますが、実際は台北の国立故宮博物院のために作られた法律だからです。六九万点を超える歴代皇帝の中国歴史上の至宝が台北国立故宮博物院に収蔵されています。これら、収蔵物に携わる台湾の人々は時には生命を掛けた長年の努力の積み重ねで、大切に護り伝えて来て下さいました。それは、台北国立故宮博物院に中華文明の真髓があることを皆さんが知り、誇りに思っていたからです。そんな大切な至宝を日本人に見て戴きたいというのが中華民国政府の思いであり、それを知る我々「日華議員懇談会」所属議員の悲願でもあったからです。

本当に開催が実現して良かったと思います。どうか、この機会に是非一人でも多くの皆さんご参観いただけたらと思います。

今、一つはオープンスカイの実現です。両国の玄関が広くなりました。

おかげさまで、昨年の台湾からの訪日者数（インバウンド）は約二四〇万人日本が長年の悲願であったインバウンド一〇〇〇万人目標が達成された（一〇三六万人）大きな要因は、その約二一％を占める台湾からの皆さんのおかげであります。同時に我国からは一四〇万人が訪台し、台日間の往来者数は、今年は四〇〇万人を超えるのではないかと喜んでいます。

このように台日間の難しい課題が次々と解決し、実績と
なっています。

結果を言えば簡単ですが、そこに至るまでは、いろんな苦
労があったという事実です。

当然です。しかし、そのような困難な政治の現場を後押し
してくれたのが民間交流の力です。どうしても、政治の現場
は、どんなにお互いが理解し合っている、必ず溝ができ、
壁がつくられるものであります。しかし、それは仕方がない
事です。

特に国と国の関係は国益と国益のぶつかり合いです。

それぞれの国の政府は自分の国の国民をしっかり守ってい
く、安全で安心な生活を保障していく事が国家の責任です。
そのためには、どうしても関係国との交渉が不可欠ですが、
当然利害がからみ問題が発生します。その問題が発生した
時、どう解決するのか？いつまで答えを出すのか？本当に元
通りの友好な関係にもどれるのか？政治の現場で作られたい
くつかの不安材料をどう取り除いていくのか、その溝を埋
め、壁を取り払ってくれる役目を果たしてくれるのが両国の日
頃の信頼関係の積み重ね、人間関係の構築が大きな支え、助
けになって生きてくると思います。正に、政治の現場でのす
きまニッチ活動が民間交流でありそのような役割を私達は
果たしていかなければなりません。

亜東親善協会も、私が会長就任と同時期に大きな節目を迎

えました。

一般社団法人に移行し、更なる社会的な責任を求められる
ことになりました。

幸いにも、先の通常総会において、新理事の皆さんにも加
わっていただき、新しい体制のもと、二年目をスタートする
ことができました。

今後は目的達成のためにも、もっと留日の皆さんにご協力
いただき会員数も増やしていければと思っています。風通し
の良い、もっと民間の皆さんが活動してもらいやすい、環境
作りを目指していきます。又、どうしても政治の力が必要な
時、私の力が及ばない時には、顧問の先生方や仲間の国会議
員の皆さんの力を借りていけば良いと思います。「原点回帰」
民間の声をしっかりと聞いていく。民間の声をしっかりと伝
えていく。民間の力を最大限に生かしていく…ことこそが、
私達の会に与えられた使命であり責任であると思っています。
す。

心を一つにして、お互いの人間関係を大切に、信頼関係を
大事にして全員野球で、歩んでいきたいと思っています。ど
うか、亜東親善協会に対しまして引き続き、ご指導とご支援
を賜りますようお願い申し上げます。

暑さの折、くれぐれもご自愛の程、皆さま方の御活躍と御
健勝をお祈り申し上げ、ご挨拶と致します。

感謝合掌

平成二六年度第二回通常総会終了の報告

記

暑中お見舞い申し上げます。

さて、去る五月一二日に開催しました当協会の第二回通常総会は各位のご協力を得まして、下記の通り全議案を滞りなく承認可決致しました。

就きましては、今後とも、社員一同並びに関係各位の協力のもとに、総会決議に基づき、各種の事業活動を一段と活発に進めてまいる所存でございます。

何卒、尚一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

先ずは、総会終了のご報告方々ご挨拶申し上げます。

敬具



(出席者)

一三九名(委任状を含む) 定款第一五条第一項の規定により適法である旨 を事務局より報告。

大江康弘氏が議長に選出され総会議事に入った。

議事録署名人選出の件について議長が計り、橋本靖男氏、松永理恵子氏両名が選出されました。

(決議事項)

第一号議案 平成二五年度事業報告承認の件

第二号議案 平成二五年度収支決算報告承認の件

第三号議案 任期満了に伴う理事、選任の件

以上の各議案について監査報告がなされ、それぞれ報告書の通り承認可決されました。

その他 事項報告

「平成二六年度事業計画」並びに「平成二六年度予算」につきましては、新法人法により理事会承認事項となり四月一六日第一回理事会において承認されましたこと報告しました。

平成二五年度事業報告書

〔平成二五年四月一日から平成二六年三月三十一日まで〕

当協会が本年度の事業計画に基づいて実施した各種事業活

動について、その主な事項をご報告申し上げます。

一、組織の強化及び社員の増強

本年度、一般社団法人への移行に伴い、新しくスタートした団体として、協会組織力の強化並びに広く公共に資する事業の展開、活動の充実を計るべく努めた。

二、当協会の社員（会員）構成は個人、法人、賛助（団体）

社員から成っており、我が国と東アジア関係諸国、特に隣国台湾との友好親善を目的に政治、経済、文化、等幅広く組織の向上に努め、活動にとりくんだ。

社員の移動の状況は次の通りである。

退会社員一九名に対し、新加入社員四名。

三月三十一日現在社員総数二五四名（個人、法人、賛助（団体））

三、親善交流の基本理念として相互の歴史、伝統文化の理解

がより一層の交流を深める、その為の各種会活動、研修会講演会等の開催と共に活発な文化活動、留学生を始め、若者との交流会を実施した。

四、継続事業の推進、本件事業についてホームページ広報誌

を活用し事業活動の広報に努め幅広く参加を呼びかけた。

継続事業 ①講演会の開催

一、

講演の内容…「科学技術による海洋立国日本」

講師 師…独立行政法人海洋研究開発機構理事長

平 朝彦 先生

日 時…平成二五年五月一日（水）

二、

講演の内容…「どうなる!?二〇一四年日本の政治」

講師 師…政治解説者 篠原 文也 先生

日 時…平成二六年二月二日（水）

継続事業② 社会見学会研修会の開催

社員の知識、向上、及び台湾留学生との交流を深める目的で社会見学会を兼ね研修会を次の通り実施した。

平成二五年九月二五日（水）

見学先 JAXA筑波宇宙センター視察

アサヒビル工場視察

平成二五年一二月四日 留学生を対象に国会見学と衆参

両院議員の先生方と懇談会を開

催した。

五、後援、協賛事業の推進

友好団体との事業（講演会、研修会など）の後援、協賛を積極的に推進してきた。

①日台親善交流

平成二五年十一月八日(金) ～十一月一〇日(日)

二泊三日間

平成二五年度日本・台湾親善交流の旅昨年に引続き台湾訪問団を実施一〇名の参加、関係機関への表敬訪問

『多謝台湾櫻苗木寄贈』友好親善に努めた。

②被災地児童支援・国際ラグビー『日台キッズラグビー交流』

台湾での開催を協賛した。

平成二六年三月二〇日(木) ～三月二三日(日)

③会報「亜東」の発行

季刊「亜東」として年四回(春、夏、秋、新春の発行で各回一、〇〇〇部、但し新春号二〇〇部増刷) 会員他、関係各位に配布。

六、会議の開催

二五年 四月一七日(水) 定例理事会 砂防会館会議室

〃 五月一五日(水) 平成二五年度通常総会

ルポール麹町

〃 七月二九日(月) 業務執行会議 協会事務所

〃 七月二九日(月) 定例理事会 砂防会館会議室

〃 九月 六日(金) 定例理事会 砂防会館会議室

〃	十一月三日(水)	業務執行会議	協会事務所
〃	十一月三日(水)	定例理事会	砂防会館会議室
〃	十二月一〇日(火)	定例理事会	明治記念館
二六年	二月 七日(金)	臨時理事会	砂防会館会議室
〃	二月二八日(金)	正副会長会議	参議院会館
〃	三月一八日(火)	業務執行会議	協会事務所



正味財産増減計算書
平成25年 4月 1日から平成26年 3月31日まで

法人名：一般社団法人 亜東親善協会
事業名：事業全体

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
經常増減の部			
經常収益			
受取会費	5,615,000	5,030,000	585,000
個人会員受取会費	5,265,000	4,380,000	885,000
法人会員受取会費	350,000	650,000	△300,000
事業収益	4,249,949	6,021,000	△1,771,051
行事関係会費	1,934,051	5,361,000	△3,426,949
広告掲載	640,000	660,000	△20,000
交流活動収入	1,675,898		1,675,898
雑収益	359	530	△171
受取利息	359	530	△171
經常収益計	9,865,308	11,051,530	△1,186,222
經常費用			
事業費	5,293,862	6,616,587	△1,322,725
行季刊亜東印刷費	2,038,258	5,972,802	△3,934,544
講演会費	561,450	643,785	△82,335
社交会費	841,365		841,365
交流活動費	121,089		121,089
管理費	1,731,700		1,731,700
給料手当	4,942,950	4,614,288	328,662
旅費	2,142,800	1,853,280	289,520
通信費	153,674	88,825	64,849
通賃	200,310	197,076	3,234
減価償却費	265,938	175,424	90,514
事務消耗品費		28,040	△28,040
支払手数料	269,988	305,074	△35,086
賃借料	176,690	19,608	157,082
渉外費	1,443,864	1,264,964	178,900
租税公課	216,236	484,783	△268,547
經常費用計	73,450	197,214	△123,764
当期經常増減額	10,236,812	11,230,875	△994,063
經常外増減の部	△371,504	△179,345	△192,159
經常外収益			
經常外収益計	0	0	0
經常外費用			
經常外費用計	0	0	0
当期經常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△371,504	△179,345	△192,159
一般正味財産期首残高	2,806,801	3,653,988	△847,187
一般正味財産期末残高	2,435,297	3,474,643	△1,039,346
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	2,435,297	3,474,643	△1,039,346

会計監査報告書

一般社団法人 亜東親善協会

会 員 各 位

平成26年4月16日

一般社団法人 亜東親善協会

監 事 荻司 隆一 

監 事 藤山 雅彦 

私たちは、平成25年4月1日から平成26年3月31日までの会計年度における
会計及び業務の監査を行い次の通り報告する。

1. 監査方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧等必要と思われる監査手続を用いて計算書類の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事会及びその他の会議に出席し、各担当理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧等必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した。

2. 監 査 意 見

- (1) 正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録は会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示していると認める。公益継続事業における支出も目的を達成していると判断した。
- (2) 事業報告の内容は真実であると認める。
- (3) 理事の職務執行に関する不正な行為又は法令もしくは寄附行為に違反する重大な事実はないと認める。

平成二六年度事業計画

〔平成二六年四月一日～平成二七年三月三十一日〕

会議の開催

二六年四月	定例理事会	(四月一六日)
五月	通常総会	(五月一二日)
六月	執行役員会	(六月二四日)
七月	定例理事会	(七月 八日)
九月	定例理事会	(第二火曜日)
十一月	定例理事会	(第二火曜日)
十二月	定例理事会	(第三金曜日)
二七年二月	定例理事会	(第一火曜日)
三月	執行役員会	()

事業

当法人は、民主主義と自由を信条とする東アジア地域諸国（主に隣国台湾）との政治、経済文化に関する調査 研究及び講演会、研究会の開催並びに研究資料の出版、及び社員相互の親睦を図ることを目的として、その目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 我が国と東アジア地域諸国との文化、芸術の相互の紹介
- (2) 我が国と東アジア地域諸国との経済協力の推進に必要な情報の収集及び斡旋
- (3) 我が国に在住する東アジア地域諸国民の交流事業

(4) 東アジア地域諸国からの在日留学生に対する交流事業

(5) 季刊「亜東」として年四回（春、夏、秋、新春）発行
一、〇〇〇部、会員外、関係各位に配布（観光協会、中華学校、等）

(6) 継続事業の推進、本件事業についてホームページ広報誌を活用し事業活動の広報に努め中広く参加を呼びかける。

(7) 後援、協賛事業の推進

友好団体との事業（講演会、研修会など）の後援、協賛を今後とも積極的に推進して行く。

前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業を実施する。



受付ロビーで歓談



大江会長あいさつ



山本副会長開会のあいさつ



ご来賓の皆さん

懇親会の開催

総会終了後、会場を移つして懇親会を開催した、山本順三副会長の開会の挨拶に続いて大江会長の挨拶、台湾側大使館より徐瑞湖副大使をはじめ多くの来賓、会員多数の参席に対し感謝とお礼を述べた。

会は、張建国副会長の司会でご来賓から各々ご挨拶をいただき、なごやかな雰囲気の内に進められた。

最後は、張碧華副会長の三本締めで互いの健康と再会を祈念して散会した。



根井洸台湾協会会長のあいさつ



徐瑞湖副代表あいさつ



矢野哲朗新理事による乾杯挨拶



一龍斎貞花師匠の余興



大江会長 貞花師匠



台湾留学生、大江会長を囲んで

講演会「八田與一物語」

「一般社団法人重東親善協会・講演会」講演録

日時 平成二六年五月一二日

場所 ルポール麴町

講師 講談師 一龍斎貞花先生

演題 台湾に東洋一のダムを造った「八田與一物語」

台湾の教科書に紹介され、多くの台湾人が敬愛する日本人がいます。

石川県出身の土木技師で、烏山頭ダムと総延長一万六〇〇〇キロに及ぶ用水路

「嘉南大圳」を完成させた八田與一です。

一・生い立ち〜台湾へ

八田與一は、一八八六年（明治一九年）現在の金沢市今町の豪農八田屋の五男として生まれ、第四高等学校から東京帝大工学部へ進み、卒業するや土木工事の新天地台湾こそ自分を活かす道と台湾総



督府土木部に技師として勤務。

「八田君、灌漑用の大きなダムを造ることが可能かどうか調査してほしい。ダムが出来れば台湾全島の殖産事業を進めることが出来るばかりか、米の増産につながる。そのため大規模なダムを造ることが必要だ。その水源調査を頼みたい」台湾総督府山形局長が八田の力量見込んで指示した。

東洋一、一五万ヘクタールのダム計画の嘉南平原には大小七つの川が流れ、濁水溪は台湾最大の川だが、その名の通り泥で濁っている。五月から九月迄の雨期は集中豪雨で洪水となり、田畑ばかりか家迄水につかり、その後は一滴も降らないカラカラに乾燥。季節風が吹くと砂塵が舞い上がり草もはえず飲み水はなく、作物は獲れず食料も乏しい。こういう状態が毎年続き伝染病が蔓延。

八田はこの大地に大規模な灌漑設備を造る構想を練り上げ、数十ページに及ぶ計画書を提出。



休暇を利用して帰国し、金沢第一高等女学校を卒業したばかりの一六歳の外代樹（とよき）と結婚。與一三一歳。

妻に早く台湾を知ってもらうためにと、総督府の役人が住まない、台湾人の多く住む町の借家が新居。與一は「台湾人も日本人も同じだ」と考え行動し、権威をちらつかせなかった。この心があったればこそ難工事を完成させ、台湾人から恩人・英雄と称えられる所以でしょう。



二・東洋一のダム計画

年間四億トンの水が必要。

この水を貯える堰堤（ダム）は、全長一、二七三m、高さ五六m、堤防の幅九m、底が三〇三m、堰堤に盛る土五四〇万立方m。五六mを超えるダムなど当時はおろか、ダム先進国のアメリカでもわずか。四〇以上の支流が流れ込む巨大な貯水池に一大堰堤を築く。

普通ダムといえば、巨大なコンクリートの壁だが、これは土のダム。その方法は東洋初のセミ・ハイドロリックフィル

工法、半水力積込み式。モルタル粘土の防水性を利用しての玉石、栗石、砂利、砂、粘土などで築く土石ダム。ダム内に土砂が溜まりにくくなっており、これと同時期に造られたダムが機能不全に陥っている中で、しっかりと稼動している。

三・難工事と家族的生活

工事現場の烏山頭は想像を絶する悪環境であった。石油ガスの噴出、大量の泥土の湧き出し、隧道（トンネル）内の灼熱の暑さ。ガス爆発事故で死者も出した。

八田は、どんなに苦しくても涙一つこぼさず強い心で先頭に立っていたのです。

烏山頭には、家族千人以上が住み、働く者、商いに来る者など二千人近い人が出入りした。学校、病院も作り、家族のため巡回映画を台北から呼び毎月上映。弓場、プール、テニスコートもあった。

八田は、仕事には厳しいが、仕事を離れると部下思いの所長と、烏山頭大家族の家長として全従業員から尊敬され、一九二〇年（大正九年）から一九三〇年（昭和五年）の一〇年間に及ぶ生活の中で人間関係による事件、事故は全くありませんでした。

四・東洋一の人造珊瑚潭

一億六千万トンを超える水が溪谷という溪谷に満ちあふれ、水没した山は樹木だけが顔をのぞかせ、正に珊瑚樹ぞくくり。東洋一の人造珊瑚潭が生まれたのです。

昭和五年五月一〇日、竣工式が行われ、工事に携わった人は勿論、その家族、近郷の人達を招き、盛大な祝賀会が開催されました。

五月一五日、嘉南大圳への通水式。大勢の人々が見守る中、六門のバルブが開かれ、毎秒七〇トンもの水が轟音を轟かせ、照り輝く太陽の光の中虹をかけ、巨大なプールへ流れおちていく、一〇年間誰もが待ちうけていた瞬間でした。

一斉に大きな拍手が起り、誰の頬にも涙が伝わっていた。しかし與一は泣かなかった。イエ泣けなかったのです。

一〇年の苦勞を流し去っていく、その情景は別世界のようでした。全体への通水は三日もかかり、豊かな水は網の目のように張り巡らされた水路に流れ込み、広い台南



の大地を潤しました。

嘉南の農民たちは「神の恵みだ、神の水だ、神様の与え賜うた水だ」と喜んだのでした。

不毛の土地は、台湾最大の穀倉地帯へと生まれ変わったのです。

五・突然の死

「南方開発のため今度はフィリピンへ灌漑調査に行くことになった。もう一度お国のために働いてくるよ」妻子に手紙を書き台湾を出発。

昭和一七年五月五日、大型客船大洋丸は、軍人三四名、南方経済建設要員千百名、乗組員三百名余を乗せ、広島県宇品沖を出航。

五月八日午後六時五〇分過ぎ、五島列島の先に潜っていた米潜水艦グレナディア号が大洋丸を確認するや四発の魚雷を発射。ドカーン 大音響と共に船が大きくゆれ船尾に命中。船内はたちまち大混乱。次々と魚雷を浴び沈没。救助された者五四三名、死亡者八一七名。

與一の遺体は六月一〇日漁船の網にかかり、衣服のポケットに入っていた名刺入れから八田であることが判明。

八田與一五六歳の生涯でありました。

台湾、ことに嘉南の人々の悲しみ、そして妻や子の悲しみはいかばかりか……。

昭和二〇年五月

三〇日台北大空襲、八田と共に働いた多くの人が亡くなり、そして八月一日無条件降伏。日本は台湾を放棄。日本人は敗者として全員台湾を去らなければならなくなった。

妻の外代樹は、夫が愛した烏山頭を離れたくありませんでした。三人の子供達と枕を並べて眠りについた翌朝、まだ明けやらぬ九月一日、子供達に気付かれぬようそっと起きると、八田家の家紋入りの和服を着、書きしたためておいた手紙を机の上に。そっと家を出ると夫の終生の事業だった烏山頭ダムの放流口へ急ぎ、渦巻くダムの中へ身を躍らせた。あたかもこの日は二五年前、嘉南大圳工事が起工された日でした。



與一と外代樹のお墓は、以前に建立された與一の銅像のうしろに建てられ中華民國三五年と刻まれ、村人たちは手を合わせて前を通ります。

與一の命日五月八日には、毎年盛大な墓前祭が営まれ、その人柄を偲んでいます。

とうとうと水をたたえる嘉南大圳が今も健在なのは「奥さんが人柱に立って守っていてくれるからだ」と、昨年（二〇一三年九月）外代樹さんの銅像も建てられました。

六・終わりに

台湾七〇%の人が一番親密に思う国が日本。人口わずか二千三百万人の台湾が東日本大震災に三百億円以上の義援金を贈ってくれました。

一龍斎貞花から講談の結びとして『日台友好を更に推進するためにも八田與一の業績を日本の教科書にも是非紹介してほしい!』とお願い申し上げます。

「台湾に東洋一のダムを造った『八田與一物語』」でございました。

署中お見舞い申し上げます

平成二十六年

台北駐日經濟文化代表處 代表 沈 斯淳	公益財団法人交流協会 理事長 今井 正	自由民主党国会対策副委員長・総務副会長 商工・中小企業関係団体委員長 国土交通委員会理事 衆議院議員 秋元 司 東京都江東区東陽五―三―二二 大興ビル二階 電話〇三(三五〇八)七三三七 FAX〇三(三五〇八)三三三七	衆議院議員 井上 信治 東京都千代田区永田町二―一―一 衆議院第一議員会館三二七号室 電話〇三(三五〇八)七三二八
自由民主党副幹事長 衆議院議員 伊東 良孝 東京都千代田区永田町二―一―一 衆議院第一議員会館六二二号室 電話〇三(三五〇八)七二七〇	衆議院議員 金子 恭之^{やすし} 東京都千代田区永田町二―一―二 衆議院第二議員会館四一〇号室 電話〇三(三五〇八)七四一〇	衆議院議員 岸 信夫 東京都千代田区永田町二―一―一 衆議院第一議員会館二〇三号室 電話〇三(三五〇八)一一〇三	国務大臣 国家公安委員長 衆議院議員 古屋 圭司 東京都千代田区永田町二―一―二 衆議院第二議員会館四二三号室 電話〇三(三五〇八)七四四〇
農林水産副大臣 衆議院議員 吉川 貴盛 東京都千代田区永田町二―一―二 衆議院第二議員会館一二〇二号室 電話〇三(三五〇八)七四五一	参議院議員 鶴保 庸介 東京都千代田区永田町二―一―一 参議院議員会館三一三三号室 電話〇三(六五五〇)〇三一三	参議院議員 松下 新平 東京都千代田区永田町二―一―一 参議院議員会館八二四号室 電話〇三(六五五〇)〇八二四	自由民主党幹事長代理 一般社団法人亜東親善協会副会長 参議院議員 山本 順三 東京都千代田区永田町二―一―一 参議院議員会館一〇一九号室 電話〇三(六五五〇)一〇一九

署中お見舞い申し上げます

平成二十六年

台北駐日經濟文化代表處 那霸分處 處長 蘇 啓誠 那霸市久茂地三一五一九 アルテビル那霸六階 電話〇九八（八六二二）七〇〇八	台北駐大阪經濟文化辦事處 處長 蔡 明耀 大阪市西区土佐堀一四一八 日栄ビル四階 電話〇六（六四四三）八四八一	台北駐日經濟文化代表處 横浜分處 處長 粘 信士 横浜市中区日本大通り六〇 朝日生命横浜ビル二階 電話〇四五（六四一）七七三七	台北駐日經濟文化代表處 札幌分處 處長 陳 桧宏 札幌市中央区北四条四丁目一番地 伊藤ビル五階 電話〇一一（一一二）二九三〇
日本華商總會 名譽理事 長兼會長 理事長 朱 文元 林 錦漫 東京都港区六本木七五一〇 電話〇三（三四〇八）四四六八	中華民國留日橫濱華僑總會 會長 施 梨鵬 理監事一同 神奈川県横浜市中区山下町一四〇番地 電話〇四五（六八一）二一一四 FAX〇四五（二〇一）二八五五	一般財団法人台灣協會 理事長 根井 洌	アジア問題懇話会 大陸問題研究協会 會長 高野 邦彦
有後藤泌尿器科皮膚科医院 院長 後藤 康文 岩手県宮古市大道一三二一四 電話〇一九（六二）三六三〇	チャイナ エアライン 日本支社長 石 炳煌 東京都千代田区内幸町一二一一 日土地内幸町ビル八階 電話〇三（六三七八）八八五五 FAX〇三（六三七八）八八八一	株式会社ホテル横須賀 代表取締役 長尾 和典 横須賀市米が浜通り二一七 電話〇四六（八二五）一一一一 FAX〇四六（八二五）一一一一	

暑中お見舞い申し上げます

平成二十六年

株式会社和興産業 代表取締役 千葉 祐三 東京都文京区千石三ー一四ー八 サンセチア文京四〇二 電話〇三(三九四)〇〇二八 FAX〇三(六九〇九)七〇三九	土木 建築 有限会社沖山興業 代表取締役 沖山 建夫 東京都八丈島八丈町三根一八一ー五 電話〇四九九六(二)〇一一一	友盛株貿易会社 代表取締役社長 鄭 尊仁 横浜市中区太田町二一三一ー一 電話〇四五(一一六)一一九八 FAX〇四五(一一六)一一八九	チャイナエアラインズグループ (株) ダイナスティ ホリデー 代表取締役社長 國廣 傑 東京都中央区銀座一ー九ー七 陽栄銀座第二ビル五階 電話〇三(五五二四)〇八八〇
一般社団法人亜東親善協会 業務執行理事 赤松 則宏	一般社団法人亜東親善協会 専務理事 崎谷 秀彦 東京都港区赤坂六ー四ー一一	一般社団法人亜東親善協会 副会長 張 碧華 東京都千代田区外神田三ー七ー七 電話〇三(三三三)〇〇三三	一般社団法人亜東親善協会 会長 大江 康弘 東京都中央区銀座六ー一三一ー一六 ウォールビル五〇五 電話〇三(六二七八)八六九〇 FAX〇三(六二七八)八三三〇
一般社団法人亜東親善協会 理事 伊野 雅晴	元内閣府大臣政務官・(元衆議院議員) 一般社団法人亜東親善協会 理事 並木 正芳 埼玉県所沢市泉町一七九三ー一三 電話〇四(二九二四)八〇五〇 日本維新の会衆議院埼玉第八支部	一般社団法人亜東親善協会 理事 呉 淑娥	あざみ野ロウンテニスクラブ 代表 益山 茂 横浜市青葉区あざみ野二ー一九ー一 電話〇四五(九〇二)九〇二二

暑中お見舞い申し上げます

平成二十六年

株式会社永島製作所 代表取締役 永島 剛士 石川県羽咋市寺家町タ一番九 電話〇七六七(一一)七〇一一 FAX〇七六七(一一)七〇一一	一般社団法人アフリカ開発協会 会長 矢野 哲朗 東京都千代田区紀尾井町四番一号 新紀尾井町ビル三階 電話〇三(三五一)八九一一 info@afreco.jp	東光不動産株式会社 代表取締役 山口 裕志 東京都渋谷区富ヶ谷二―一五 電話〇三(五七九〇)五七九〇 FAX〇三(五七九〇)五七九九	一般社団法人亜東親善協会 理事 程 金笙
--	--	--	-------------------------------------

友情と信頼

一般社団法人 亜 東 親 善 協 会

只今、会員を募集しております。

入 会 の 手 続 き

1. 事務局所定の入会申込書を提出していただきます。
2. 入会は、協会理事会の議を経て承認されます。

年会費	法人会員	50,000円
	賛助会員	30,000円
	個人会員	10,000円

お知らせ

台北國立故宮博物院「特別展」

長い間の念願であった、台北國立故宮博物院の特別展が日華懇の先生をはじめ多くの両国関係者のご努力で実現する運びとなりました。

一、東京では、六月二四日～九月一五日まで 東京国立博物館（上野）で開催

二、九州では、一〇月七日～十一月三〇日まで 九州国立博物館（福岡県太宰府）で開催されます。

わが国では古くから中国の文化に親しみ、積極的にその摂取につとめてきました。

後に形成された日本独自の文化を理解するために、我々はまずその淵源である中国文化を深く理解する必要があります。

台北國立故宮博物院に収蔵される六九万点に及び文化財の多くは、宋時代から元・明・清時代にわたる歴代皇帝のコレクションを受け継ぐものです。中国文化の結晶ともいべき名品を多数収蔵する同院の文化財を抜きにして、中国の悠久の文化を理解することにはなりません。

本展は、台北故宮

の収蔵品から特に

代表的な作品

一八六件を厳選し

て紹介する日本初

の展覧会です。

一人でも多くの方々が参観されま

すようお願いしま



表題【亜 東】は中華民国總統馬英九閣下の御揮毫です

季 刊 亜 東 (アジアの架け橋) 平成26年 夏季号 (No.50)

発行日 : 平成26年7月15日

発行所 : 一般社団法人亜東親善協会

編 集 : 崎谷秀彦

所在地 : 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-5 砂防会館4階

Tel : 03-3261-6405 Fax : 03-3556-5770

H P : atousinzen@nifty.com

印 刷 : ヨシダ印刷株式会社

台湾の魅力を、あなたにも。 チャイナ エアライン



チャイナ エアラインで、台湾の旅へ。

台北101や日月潭、阿里山など、見どころにあふれた台湾。

日本から飛ぶなら、チャイナ エアラインで。行き届いたサービス、快適なひととき…。

台湾を訪れるあなたを、心を込めたおもてなしで歓迎いたします。